

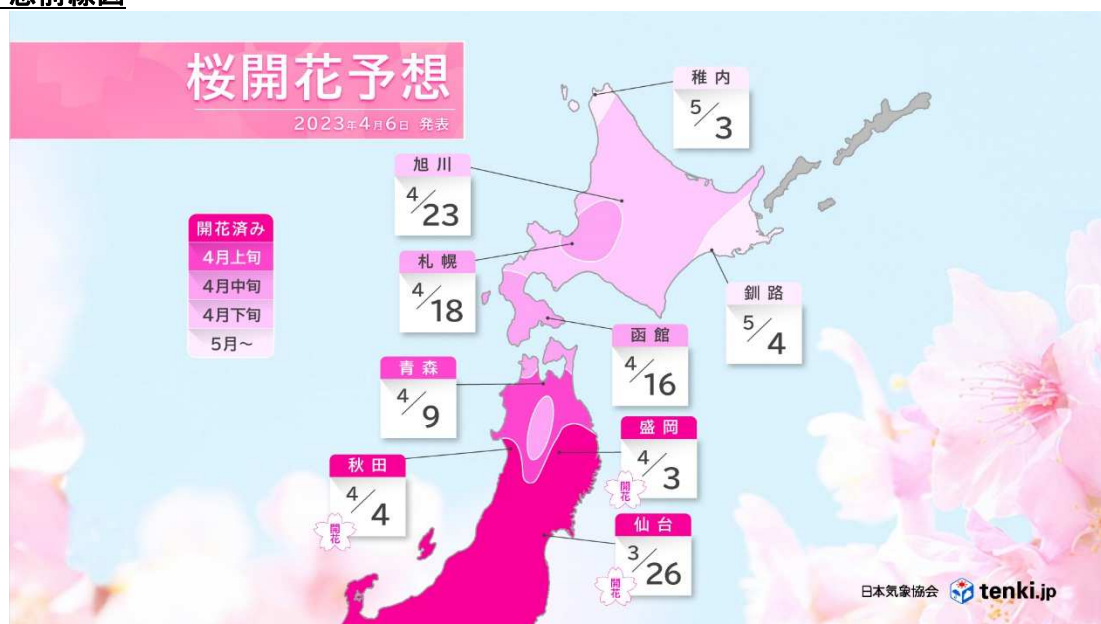
【報道関係各位】

2023年4月6日
一般財団法人 日本気象協会

2023年桜開花予想（臨時報） 北の大地は記録的な早さで桜色に 札幌では18日開花

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国84地点の桜〔ソメイヨシノ ほか〕の開花予想（臨時報）を、2023年4月6日（木）に発表します。なお、第8回は予定通り4月13日（木）に発表予定です。

開花予想前線図



開花・満開予想日（主な地点）

地点	開花 予想日と平年比		平年開花日		昨年開花日		満開 予想日と平年比		平年満開日		昨年満開日	
	予想日	平年比					予想日	平年比				
鹿児島市	3/24	平年並	3/26	3/20	4/5	平年並	4/5	4/1				
福岡市	3/18	早い	3/22	3/17	3/26	早い	3/31	3/27				
高知市	3/17	早い	3/22	3/19	3/24	早い	3/30	3/27				
広島市	3/19	早い	3/25	3/21	3/28	早い	4/3	3/29				
大阪市	3/19	かなり早い	3/27	3/23	3/27	かなり早い	4/4	3/30				
名古屋市	3/17	かなり早い	3/24	3/22	3/27	早い	4/2	3/30				
千代田区	3/14	かなり早い	3/24	3/20	3/22	かなり早い	3/31	3/27				
長野市	3/28	かなり早い	4/11	4/9	4/3	かなり早い	4/16	4/11				
新潟市	3/27	かなり早い	4/8	4/8	3/31	かなり早い	4/13	4/11				
金沢市	3/23	かなり早い	4/3	3/30	3/30	かなり早い	4/8	4/5				
仙台市	3/26	かなり早い	4/8	4/8	3/31	かなり早い	4/13	4/11				
秋田市	4/4	かなり早い	4/17	4/12	4/10	かなり早い	4/22	4/16				
青森市	4/9	かなり早い	4/22	4/16	4/14	かなり早い	4/26	4/20				
札幌市	4/18	かなり早い	5/1	4/23	4/21	かなり早い	5/6	4/25				
釧路市※	5/4	かなり早い	5/16	5/8	5/7	かなり早い	5/19	5/10				

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



開花と満開の傾向

4月に入り、東北以南のほとんどの地域で満開を迎えています。今春は、標高の高い地域や北へ行くほど開花と満開が早くなる傾向にあり、関東甲信や北陸、東北では、多くの地点で平年より10日以上早い開花と満開になりました。

一方、これから本格的な桜シーズンを迎える、東北北部および北海道では、3月下旬からの高温や、今後の予想気温から、桜前線の動きがさらに早まるでしょう。最新の予想では、青森で4月9日に開花した後、桜前線は津軽海峡を渡り、函館で16日、札幌では18日に開花する見込みです。最早開花記録を更新する地点がさらに増え、北の大地は記録的な早さで桜色に染まるでしょう。

全84地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーびー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1: 以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

*2023年シーズンの開花状況を踏まえ、4月6日(木)に臨時報を発表しました。
今後も状況によって臨時報を発表します。

第1回 1月26日(木)	第2回 2月16日(木)	第3回 3月2日(木)	第4回 3月9日(木)
第5回 3月16日(木)	第6回 3月23日(木)	第7回 3月30日(木)	第8回 4月13日(木)
第9回 4月27日(木)			

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 1月、2月中は49地点、3月以降は全国で84地点を予定しています。予想地点84地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる31地点となります。

*当初は89地点の発表を予定しておりましたが、検討の結果、84地点に変更となりました。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で17年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。